



—日—本—B—B—S—連—盟—機—関—紙

Big Brothers
&
Sisters Movement

ともだち

Vol.193
2012
(H24年)
12月

発行:日本BBS連盟事務局

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-10-9 更生保護会館内 TEL 03(3356)7383 FAX 03(3356)7610



親子ふれあい工作教室
凧づくり 凧あけ
(八王子BBS会主催)



* * * もくじ * * *

- ・ 第64回 全国BBS大会 開催報告 2
- ・ 第53回 日本BBS連盟 BBS会員中央研修 3-4
- ・ ともだち活動 fromみやぎ 5
- ・ 北から南から(青年国際交流事業報告) 6-7
- ・ グループ活動 fromとうきょう 8
- ・ 学生リレー 9
- ・ BBSにエール!! 10
- ・ お知らせのページ・無尽灯 11
- ・ お知らせのページ・編集後記 12



第64回 全国BBS大会

平成24年度法務大臣感謝状贈呈式 開催報告 Congratulation!!

式典に参列して

日本BBS連盟事務局長 長谷川 正光

平成24年10月29日月曜日、法務省20階の会議室で本年度の法務大臣感謝状贈呈式が行われました。今年は個人13名、団体3地区会が受彰しました。平日の行事でしたが大半の方は前日から宿泊し11名の会員が出席しました。

当日は、贈呈式に先立ち法務省の隣の法曹会館において、お祝いの昼食会を日本BBS連盟主催により開催。1ヶ月前に就任したばかりの斎藤雄彦新保護局長をはじめ、保護局からは板谷充更生保護振興課長、荒明BBS担当官にも加わっていただき、受彰者の自己紹介を兼ね、それぞれのBBS活動の経験談等を和やかな雰囲気の中で保護局の方々に披露する機会となりました。

昼食後、式典会場の20階会議室に移動。国会開会日のため滝実法務大臣のご臨席はかないませんでしたが、大臣に代わり松野信夫法務大臣政務官から一人一人に感謝状が手渡されました。

受彰者のみなさん

県連名	氏名	県連名	氏名	県連名	氏名
釧路	成田 健太郎	富山	西田 謙治	愛媛	藤原 二恵
青森	木村 守伸	石川	持田 真生	福岡	今泉 輝幸
秋田	菊地 篤男	岐阜	大垣地区BBS会	佐賀	藤佐 磨意子
福島	桑田 彰	滋賀	政川 純子	熊本	鏡山 晃子
東京	北多摩西(立川)BBS会	京都	京都中央地区BBS会		
横浜	小柳 貴紀	大阪	佐治 直子		



北日本新聞に西田謙治
会員が紹介されました



法務大臣感謝状を受彰した
中部地方BBS連盟副会長

けんじ
西田
謙治さん

にしだ けんじ 謙治さん
西田謙治は、法務省の職員として勤務する前に、保護者としての経験を活かして、BBS活動に取り組んでいました。その後、BBS連盟の副会長に就任し、BBS活動の発展に貢献しました。西田謙治さんは、BBS活動を通じて、多くの人々に支えられてきました。彼の活動に対する感謝の意を込めて、法務大臣感謝状が贈呈されました。

平成24年度BBS会員に対する法務大臣感謝状贈呈式 受彰者謝辞

本日、表彰を受けたBBS会員を代表し、一言お詫び申し上げます。

昨年の東日本大震災より「絆」ということが声高らかに言われるようになりました。私達BBSの活動は、昭和22年の発足おほかに「絆」によって、問題を抱える少年達と兄や姉のような立場で接し、一緒に悩み、学び、樂むことを通じて、少年の立ち直りや自主を支援してまいりました。また、その交流を重ねながら、私達自身も成長することができました。私達は、更生保護に携わる団体の皆様や地域の方々のご指導、ご支援をいただきながら、積み重ねてきた経験を活かし、これからも「ともだち活動」や「社会貢献活動」などBBS活動の発展に努めています。今後ともBBSの活動に対して、更なるご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げ、謝辞といたします。

本日は、誠にありがとうございました。

平成24年10月29日 石川県BBS連盟 持田 真生

第53回 日本BBS連盟 BBS会員中央研修会



平成24年10月6・7日に、中央研修会が国立オリンピック記念青少年センターにおいて開催されました。私、ともだち編集員（高部）も取材員として参加してきました！研修内容と感想等を報告します♪ 北は北海道留萌から南は沖縄県宮古島まで！まさに全国のBBS会員が集った2日間でした。

<1日目> 10月6日(土)

時間	スケジュール
12:30-12:45	開講式 ・挨拶 法務省保護局 斎藤雄彦保護局長 日本BBS連盟 馬場義宣会長 日本BBS連盟出席役員の紹介
12:45-13:00	オリエンテーション 法務省保護局 荒明法務事務官 日本BBS連盟 長谷川事務局長
13:00-14:30	研修1 「講義(BBSの地区会活動等について)」 島根県BBS連盟 本宮和也さん 静岡県BBS連盟 池田正樹さん 写真撮影
14:30-17:50	研修2 「グループ協議(これからBBS運動について)」 1. 地区会の活動について 2. 組織の運営・研さんについて 3. 更生保護関係およびそれ以外の機関団体、他地区会との連携について(自治体・青年団体等を含む) 4. 会員獲得。定着、広報について
17:50-18:20	事務局連絡、宿泊オリエンテーション
18:45-20:30	意見交換会

<2日目> 10月7日(日)

時間	スケジュール
8:45-11:00	研修3 「グループ協議結果発表・意見交換」
11:00-12:00	研修4 「講義・より充実したボランティア活動のために」～ボランティア活動の原則とこれからのBBS活動に期待すること～ 社会福祉法人渋谷区社会福祉協議会 しぶやボランティアセンター 吉良裕美子さん
12:00-12:30	閉講式 ・修了証書授与 ・挨拶および講評 日本BBS連盟 田中燈一副会長



講師の方々
(研修1・4)

島根県BBS連盟 本宮和也さん
静岡県BBS連盟 池田正樹さん
渋谷区社会福祉協議会 吉良裕美子さん



3人の講義を聞いて



島根県BBS連盟の本宮さんから学生会員から社会人会員になる際の苦労や社会人会員としてのBBS活動への関わりについて、自身の経験をもとに話して頂きました。各地区会と都道府県連、各地連の関係構築や情報共有によって社会人会員も高いモチベーションをもって参加できることにつながるのではないかというお話をしました。

情報共有や関係構築の重要性はいくら認識してもし過ぎることはないと思います。が、実際やるとなると書類作成や連絡も増え引き継ぎも煩雑…などと戻込みしてはいられないことを痛感しました。

静岡県BBS連盟の池田さんは、自分が事務局長をされている三島地区BBS会の活動をもとに地区会の運営についてお話を頂きました。

課題として挙げられた会員・活動者の確保や地区会運営への会員の関心の低さは、三島地区に限らず多くの地区会に当てはまる感じました。それに対して池田さんは「BBS活動が今しかできない活動であることを自覚する」「BBS会は地域の社会資源の一つであり単なるサークル活動はない」「ただ活動に参加する

だけの人とそのプログラムを組み運営して責任を持つ人は違う。」といった、BBS 魂を揺さぶられる熱いメッセージをおっしゃっていました。

2日目には渋谷区社会福祉協議会の吉良裕美子さんが、これからのBBS活動に期待することとして、情報共有・交流をBBS内部だけでなく地域ともはかっていくことを挙げられました。



グループ協議と発表

研修では全国からの研修員によるグループ協議も行われ、4テーマについて7グループが討議を重ね発表していました。

各グループ内の研修員の出身地域・年齢・性別はまちまちで時折お国の言葉も混じる中、白熱の議論が行われました。

グループ協議の形態も座談会形式だったり、ホワイトボードを使ってたり、グループ内で更に小グループをつくっていたりと様々でしたが、どこもBBS会員どうしの飾らない雰囲気の中で、本音の話し合いが行われていました。

「社会を明るくする運動」「ともだち活動」といった名前は同じでも、例えば地元の名山で登山をやってたり被災地として新たなニーズがあつたりと地域性を反映した活動が展開されていることを感じました。

グループによっては食事や意見交換会の後、夜11時まで有志で自主討論を重ねたところもあったとか！たくさんのディスカッションを終えて、次の日は各グループの発表を行いました。各グループが壇上で出す様々な提案に対して、他のグループの研修員からも質問や意見が飛び交いました。



中央研修会を終えて…



グループ協議や発表の取材では、活動人数の不足などは自分の地区会だけでなく全国的に同じような悩みも持つ会があるということを感じました。

一方で地域と結びついた地区会ごとの悩みや問題点をどこも抱えており、地域なくしてBBS活動なし、これからもっと地域に打って出していくことが必要、という講義の内容を再認識させられました。

他の参加者からも「更生保護が地域の方や民間の方と共にやつて日本を誇るべき制度だと改めて確認できた」「他地区的活動を知れてよかったです」「社会人の方の若々しさに驚いた！」といった声が聞かれました。



ともだち活動

from みやぎ

青葉地区BBS会

伴 紐介

私は入会2年目にして初めてともだち活動を担当しました。学習支援という形だったので数学などを勉強したのはもちろんですが、振り返ればこのともだち活動自体がすばらしい勉強でした。

少年と会う前、私は変に緊張していました。一人の少年に対しBBS二人という少人数で活動するのは初めてだったからです。また保護観察中という言葉が、私の中の少年のイメージを悪い方へふくらませました。私はおどおどしながら顔合わせの日を迎えました。いざ少年と話してみると、私の緊張と勝手なイメージはすぐ吹き飛びました。少年は私たちの話を真剣に聞いてくれます。私の冗談に対しても笑ってくれます。

和やかな雰囲気の中で勉強や部活の話などを主にしました。少年は学校の授業についていけず、堪え忍んでいる状態だということを素直に話してくれました。このとき少年は曇った表情をしていましたが、希望に満ちあふれた姿も見られます。私が高校時代の部活の話をしたとき、「やっぱ高校は楽しいですか」と聞かれました。私はもちろんだと言って、高校の思い出を話しました。その時の少年の目は輝いていました。彼がどれほど高校に行きたいのかが伝わってきました。私はこのともだち活動を彼にとって有意義なものにしていきたいと張り切りました。

次の回から私たちは本格的な勉強に入りました。少年が苦手としている数学を中心にやっていくことにしました。はじめはかなり苦戦し、一問解くのにも時間がかかりました。ただ少年は投げ出したり、目を背けたりということを一切せず、本当に一生懸命に取り組んでいます。苦労して一問といたとき見せる彼の笑顔に私もうれしくなりました。回を重ねるたびに問題を解く力と集中力が増しました。二時間はやっていたのですが、長く感じることなくすぐに終わりの時間が来ます。「集中しているとあつという間ですね」と少年も言います。こんなにできるのだと自分の力に驚いているようでした。そのうち活動回数と時間を増やしてほしいと少年自ら言ってくれました。私は少年のやる気に驚きましたし、うれしくもありました。宿題の取り組み方も変わってきました。わからないと真っ白なまま持ってきて、活動時間中に一緒に説くという状態だったのが、分からなくとも自分の力でやってくるようになりました。会うたびに少しずつ成長する少年の姿に、私は背中を押されました。傍から見れば、私が少年に勉強を教えているという姿は、単純に年上・年下の関係に見えるかもしれません。しかし、私たちの声に少年が応え、その姿を見て私たちも気持ちを揺さぶられる。互いに高めあっていける関係はともだちだと私は思います。

勉強も着々と進み受験も近づいてきたころ、私たちに非常に残念な連絡が入ってきました。少年が事件を起こしてしまったという内容です。受験もどうなるかわからない状況だということです。そこでともだち活動は終了となりました。私は大きなショックを受けました。あんなにも頑張っている姿を見ていたので信じられない出来事でした。やはり私たちは少年の人生のほんの一部分に触れたに過ぎず、そのような存在が少年を変えられるわけはないのかと思い、自分をなだめました。ただどこかで少年のことを思い、信じていました。

受験が終わった頃に、その後の少年の話を担当の家庭裁判所調査官の方からお聞きしました。試験を受け見事合格したということでした。そして少年からの手紙を受け取りました。そこには感謝と反省が書かれていました。

私がともだち活動を終えて思うことは、信じ合うことで人はつながるのだなということです。少年が私たちを信じて、積極的な姿勢を見せてくれました。私たちもその頑張りを最後まで信じました。ともだちの意味が少し分かったような気がします。

ともだち活動から学んだことを胸に、一人でも多くの少年とともにになれたらと思います。





平成24年10月7日～16日、「内閣府の青年国際交流事業」として“青年社会活動コアリーダー育成プログラム（青少年関連分野）派遣団”に応募し、ドイツで研修を受けた広島BBS連盟の小山貴弘会員から、その様子をともだち編集部に語っていただきました。

Q1 応募のきっかけは？

ぼくは、広島県BBS連盟の事務局長を10数年、中国地方BBS連盟事務局長を5年程度務めています。しかし、ボランティア団体で「事務局長」という職を長年務めることがいいのかな？と疑問を持つことがあります。

実際、後継がない、継続して会員となる人材が少ないという現状があります。BBSメンバーの中心は学生です。学生はいずれ卒業します。卒業と一緒に他地方に就職する人がほとんどで、会員をやめてしまいます。

2012年2月、中国地方BBS連盟事務局のアンケート結果、中国地方内BBSメンバーのうち、学生時代会員で、社会人になって続けているメンバーは4%でした。そのメンバーはBBSの幹部がほとんどで、現在とても重要な役割を果たしています。

「社会人になってもBBSを続けたいですか」の問い合わせに「はい」と答えたメンバーは23%いました。4%と23%のギャップの問題については、組織を運営する幹部が問題を解決に近づけていく努力が必要だと感じました。

このようなことから、ドイツではどんな状況なのだろう？と思い、ドイツの現場を視察し学びたいと思ったので応募することにしました。



▲ 団員とホストファミリー



Q2. ドイツで学んできたことは？

今事業でのぼくのテーマは、「組織運営の人材育成と確保について」でした。



多くのBBS会員は大学卒業時、他地方へ移ってしまう。入社当初はボランティア活動をする余裕はない。また他の地域でBBSに再入会することは敷居が高い、またはそのBBS会と相性が合わない。あるいは、BBS活動は学生時代で終わりと決めている。ぼくはこうではないかと予想しています。

ドイツで直接的な答えを見つけることはできませんでした。しかし「青少年消防団」を訪問した時、少年たちが、「ぼくたちはこの地域を守っている。そしてそれを誇りに思っている。」と言いました。「活動を長く続けるコツは何かある？」と聞くと、「小さい時から参加していることかな。」と答えてくれました。

また、自分を振り返ってみました。ぼくは大学2年の時にBBSに入会し、鹿児島から地元の広島へ戻ってきて、今も続けています。なぜか考えてみると、「BBSが楽しい」、「誰かのために役に立ちたい」大きくはこの2つです。

ドイツで学んだことと、自分の経験を合わせて考えると「地域とのつながり」。BBSで言えば、『保護司会、更生保護女性会とのつながり』。

大学卒業等でBBSをやめた人にも、メールマガジン「チュウBメルマガ」を通してつながり続ける。そして私たち先輩から後輩へBBSの「楽しさ」を伝えていく。これらを開拓・継続しようと思っています。

Q3. 参加して一番良かったと思うことは何ですか？

「国際交流」が一番良かったと思います！

ぼくは英語もドイツ語もできません。ホームステイのホストファミリーは一人でした。一対一なので何とかして会話をしなければならない状況に追い込まれたのか、なるようになれ！と思ったのか、辞書と互いの気持ちで日常会話はほとんど通じました。「気持ちが伝わる」とって、とても爽快でした！

ホストファミリーのアンドレアさんは、ソーシャルワーカーで、友人に保護観察官がいて、夕食を3人で共にしました。ドイツには一部、青少年保護観察官がいて、彼もその一人でした。ドイツでは保護観察等法的処分を受けた少年に対しては、プロのみが対応することを聞き、BBSは貴重な機会を与えられているんだなと感じました。

これは言いたい！ビールはめっちゃうまかった！！



Q4. これから応募を希望するBBS会員に対してのアドバイスは？

内閣府や他の省等で、国際交流事業はあり、条件はあると思いますが、金銭の個人負担少なく外国へ行くことができます。

「何をしやべっているかよくわからん。」「ちょっと頼りない。」
ぼくを知っている人はわかると思います。こんなぼくでも行けたのだから、人生は一回！
自らチャンスを獲得してみませんか？

グループ活動 from とうきょう



東京都八王子BBS会

八王子BBS会では、主催事業の1つとして「さがしてクッキング in 八王子」を行っています。「さがしてクッキング」とは、BBS・少年・保護司・保護観察官が4つのグループに分かれて創作料理を作る行事で、その目的は『料理を共に作り食事をする中で、少年は大人の知識や経験を学び、年長者は少年たちの豊かな感性に触れる機会とし、さらに援農(農業体験)を通して育てた野菜を使うことで、身近な「食」を見直し食材を大切にする心や日々食事を作ってくれる人への感謝の気持ちも芽生えることを期待する』というものです、関係機関・団体の方々との連携を深める場にもなっています。また、ともだち活動で接している少年の普段とは違った一面を見る機会にもなっています。

毎年10月末から11月初めに開催していますが、この事業に向けてBBSと少年は4月から

援農(農業体験)で食材となる野菜を育て、実行委員を中心に行事の内容を練り上げていきます。

今年度は10月27日(土)に開催し、BBS19名、少年1名(当初4名参加予定)、保護観察官3名、保護司2名、講師、援農体験先農家の計27名で行いました。

料理のテーマは毎年変わり、第9回目の今年は「世界の食卓」をテーマに、アジア、アメリカ、アフリカ、ヨーロッパの料理を各班3品ずつ作りました。

また、多くの会員が前日から泊まり込み



で準備に参加し、野菜の収穫、野菜洗い・仕分け、買い出し等の作業を行いました。

当日の朝は8時50分に集合し、荷物の搬入・準備を行いました。10時からの開会式では会長挨拶、タイムスケジュール説明の後、くじでそれぞれの班が作る料理を決めました。料理名と完成した写真が載ったカードと食材が配られたところで料理開始です。レシピがないのでカードと食材だけを頼りに作り方を“さがしながら”料理を作りました。

13時からの試食タイムでは、自分の班のものだけでなく、他の班の作った料理を美味しくいただきました。途中で農家の方から援農時の様子や野菜にまつわる話をいただいた後、実行委員から各料理の発祥の地や由来についての発表がありました。

今回は初めて名前を聞く料理も多く、実際の料理とは違う料理ができあがった班もありましたが、それぞれが世界に一つだけのレシピを“さがす”ことができました。どの班も最初は緊張していましたが、協力しながら料理をしているうちに打ち解け、完成した

料理を食べる頃には会話も弾み、口々に「楽しかった」「また参加したい」と言う声が聞こえました。

参加少年からは「最初はどうやったら良いかわからなかつたけれど、最後は楽しくて良かったです。またこのような機会をいただけたらと思います」という感想をもらいました。「料理は実践から学び、自分の舌で、感覚で試すもの」という講師の講評がありましたが、正しい作り方ではなくても美味しい料理ができたのは、皆で協力し試行錯誤した成果だと思います。この事業は、BBSだけでなく少年や保護観察官、保護司の方々も心から夢中になって楽しめる行事になっているので、来年以降も続けていきたいと考えています。





学生リレー第8弾！全国のがんばっている学生の会員さんの紹介です。
今回は、『中部地方』・『九州地方』からのお届けです。

I 大堀 晴香（おおほり はるか）さん … 金沢BBS会（石川県）

わたしはこんなヒト！



みなさんはじめまして。出身は岐阜県ですが、いまは地元を出て石川県の金沢大学に通っています。趣味は料理とお菓子作り、友達を呼んでご飯会をしたり、特別な日にお菓子をプレゼントしたりして喜んでもらうことが大好きです。それから、大学生活の間にしてよかったなと思うことは、カンボジアスタディツアーへの参加です。現地での経験はもちろん、北海道から九州まで全国に素敵なお仲間ができたことが本当に宝物。学生のうちに観光ではない海外旅行を経験すること、かなりおススメです(^^)

うちの地区はこんなトコ！



金沢地区BBS会は、社会人会員と金沢大学の学生サークル(BBS会)の学生会員とで構成されています。主な活動は年に数回行われるグループワークです。グループワークでは対象の少年少女たちとゴミ拾いをしてBBQをしたり、皆で協力して鍋を作ったり、少年少女たちと積極的に関わりが持てるような活動を自分たちで企画して行っています。その他の活動としては、少年院への訪問や研修会への参加、勉強会・定例会などを行っています。

**** FREE ****

私の大学での現在の研究について少し紹介させて頂きます。大学では社会学を専攻しており、現在「犯罪歴がある人の社会復帰に関する意識の規定要因」というテーマで社会調査を行っています。犯罪を犯した人の適切な社会復帰は本人だけではなく、再犯の予防につながるという点で社会にとっても重要な意義を持つと考えられるが、では、実際に人々は犯罪を犯した人の社会復帰をどのように捉えているのだろうか、というのが私のテーマに関する関心です。犯罪を犯した人の社会復帰に対して、どのような人々が肯定的で、どのような人々が否定的なのか、具体的には性別や年齢、学歴などのその人の属性や、自分の生活にどの程度満足しているか、他者をどの程度信頼しているかなどの意識・考え方の違いが、「犯罪歴がある人の社会復帰に関する意識」とどのように関連しているかということを分析したいと考えています。今回の研究がBBSでの活動に少しでもつながるものになればいいなと思っています。

II 内山 千尋（うちやま ちさえ）さん … 長崎純心大学BBS会（長崎県）

わたしはこんなヒト！



私は長崎純心大学BBS会に所属している、長崎純心大学人文学部人間心理学科2年生です。学校、アルバイト、BBS活動で毎日忙しいですが、充実した大学生活を送ることができます。大学生という立場だからこそ経験出来ることがたくさんあります。この立場を利用して大学生のうちにいろんな経験を積みたいと思っています。宜しくお願いします。

うちの地区はこんなトコ！



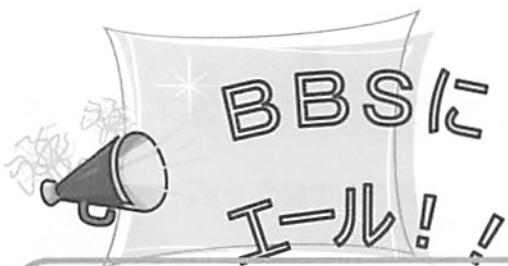
純心BBS会は、長崎純心大学の学生のみで構成され、現在約50人の学生会員が所属し活動しています。主な活動は、児童養護施設、一時保護所、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、学童保育での学習支援、ふれあい活動、施設の行事への参加、自己研修などです。私たちは、子どもたちが普段接する大人より少し近い年齢の存在です。もしかしたら、彼らが今抱えている問題を自分たちもつい最近通過してきたばかりかもしれません。そんな私たちが社会に受け入れてもらっているように、私たちが彼らを受け入れることで、一緒に成長できればと思い、日々活動しています。

**** FREE ****

私は将来、児童養護施設で働きたいという夢があります。現在、子どもの問題は複雑化していると言われています。そのために私は心理学を学び心理的な援助もできる保育士になりたいと思い、長崎純心大学の人間心理学科に入学しました。

しかし、心理学科には施設実習がなく、子どもたちと直接かかわる機会がなく、私は学生時代に様々な子どもたちと関われることができる機会がないかと探しており、子どもたちに勉強を教えたり一緒に遊んだりするサークルがあるという話を聞き純心BBS会に入部しました。当初、BBSとはサークルの名前だと思っていた、日本BBS連盟という全国規模の団体だということを知りませんでした。初めは、活動や学内の定例会にのみ参加していましたが、県の例会や研修会、地方の大会、学生大会準備会、中央研修などに参加してBBSの規模の大きさや多様な活動内容などを知ることができ、さらにBBSに関心を持ち魅力を感じました。たくさんの子どもたち、全国のBBS会員との出会いで私は多くのことを学ぶことができています。これからも、活動の拠点があることに感謝し楽しく活動ていきたいと思います。





BBS会員への期待！

公益財団法人 日立みらい財団
事務局長 吉野 正隆

日立みらい財団の創設者である竹内亀次郎は、日立製作所の副社長として戦前戦後の苦難の時代に陣頭指揮を執り、日立の発展に寄与しました。竹内は現場の第一線を退いた後、当時大きな社会問題となっていた青少年の非行化に心を痛め「青少年が人生を踏み迷うことなく、強く生き抜いていくためのお手伝いをしたい」という強い想いを抱きます。そして自らの私財も提供し、昭和42年に「青少年更生福祉センター」、昭和46年に「矯正福祉会」という2つの財団を設立します。その後平成12年にこれらを統合、日立みらい財団が発足しました。BBSとは財団の設立当初からのお付き合いで、今年で45周年を迎えました。

今日、日立みらい財団と日本BBS連盟で連携して実施している主な事業に「こども・みらい・サポート事業」や「BBSモデル活動事業」、「BBS情報共有ワークショップ」などがあります。「こども・みらい・サポート事業」は、「非行のない社会性のあるたくましい子ども」に育つ環境作りを目的とし、毎年全国各地をまわって開催されています。この行事には、私も財団の職員も泊まり込みで参加していますが、毎年新たな発見と感動があり、逆に我々財団の職員が勇気付けられることがたびたびです。



本年度の「こども・みらい・サポート事業」では、50名程度の小学生を受け入れるために、100名近くの大学生を中心とした若いBBS会員が集まりました。一見、会員の数が多く思えますが、実際には全員が重労働を受け持っていました。

例えば「班付部」。実際に子ども達と寝食を共にする係です。お互い初対面ですからぎこちない関係から始まりますが、次第に打ち解けて本当の兄姉以上に甘える子ども達も出てきます。しかし常に子ども達の安全に気を配り、わがままな子どもや言うことを聞かない子どもをなだめたり、ホームシックにかかった子どもを慰めたり、食事や入浴の世話はもちろん、子ども達が寝てからも目を離さずに見守るなど一時も気が抜けません。

子ども達とは直接接することの少ない「生活部」や「備品係」も大変です。真夏の炎天下に大量の備品や食料などを運び込んだり、テントの設営やレクリエーションの準備、後片付けなど仕事は尽きません。それほど大変なのに、若きBBSの皆さんは常に笑顔で明るく活躍しています。本当に頭が下がる瞬間ですし、彼らの明るい笑顔を見ていると、彼らに対し心底からの敬意を覚えます。



BBS活動の特徴の一つは、このように大学生を中心とした若い会員が、少年や地域社会に密着した「互いの顔が見える活動」をしていることではないかと思います。こうした地道な活動を継続することで、少年や地域社会の皆さんとの信頼関係が培われ、六十有余年におよぶ「崇高な理念を貫き通す活動」へつながってきたのだと思います。

私たちの財団は、子ども達の健全な成長と地域社会の発展を願い、微力ではありますが全力を尽くしてまいりました。これからも大学生を中心とした多くの若いBBS会員が増え、少年や地域社会と一緒に活動を推進される上で一助となればと願っております。全国のBBS会員皆様のさらなる活躍と日本BBS連盟の益々のご発展を祈念してやみません。



無尽灯

「更生保護」2012年10月号54頁以下に、『千葉保護観察所の社会貢献活動～海岸清掃活動～』が紹介されています。

「海辺という場所から引き出される記憶は、いい思い出であることが多いようです。思い出話に花が咲く傍らで、悪くない表情で空間に溶け込んでいる保護観察対象者を見ていると……」。

この続きは更生保護誌を読んでください。残念なことは、この活動にBBS会員が登場しないことです。BBS会員どうした！！

※むじんとう【無尽灯】…仏の教えが次々と伝わって尽きないことを、一つの灯火が無数の灯火になることに例えている語

お知らせのページ

日本更生保護学会発足！！ 一設立大会にBBS会員も参加ー

平成24年12月8日(土)、9日(日)の二日間にわたり、立教大学池袋キャンパス(東京都豊島区)において、「更生保護学の創成をめざして」と題し、学会の設立大会が開催されました。

更生保護関係職員、OB、大学研究者、保護司、福祉関係者、大学院生、そして現役BBS会員、元BBS会員など約400名以上が参集。盛大な設立総会となりました。

一日目は、初代会長の藤本哲也中央大学名誉教授の基調講演後、ニュージーランドとデンマークからの2名のパネリストによる同時通訳付のシンポジウム「犯罪者処遇における再犯抑止と更生支援」が開かれ、全体での懇親会へと移りました。懇親会終了後は、日B連馬場会長を中心に席を変えて現役会員と観察所、鑑別所、科学警察研究所、PFI刑務所などに勤務する元BBS会員など12名が夜遅くまで親交を深めました。

二日目は、5つのラウンドテーブルに分かれ、それぞれのテーマ毎に約3時間にわたり、発表や意見交換が行われました。

更生保護学会の入会手続きについては「更生保護学会」のホームページを参照して下さい。学生BBS会員の方は入会してはいかがでしょうか。



25年度BBSモデル活動 の申請を！

平成25年度においても(公益財団法人)日立みらい財団のご厚意により県B連及び各地区BBS会のモデル活動に対し助成金の交付がなされます。については「BBSモデル活動実施要領」等(日B連ホームページ掲載)を参照の上、日本BBS連盟あてに申請して下さい。

なお、本年度は、17団体が助成を受けていますが、既に活動が終了した地区会においては「モデル活動実施結果報告」により、日本BBS連盟に写真2枚程度を添付の上、メールでもつて報告願います。

ご支援ご協力感謝

今回も次の方々から御支援が寄せられています。
10月1日から12月28日までに寄附金等をお寄せ
くださいました皆様のお名前を掲載させていただきます。
BBS運動にお心をお寄せいただき深く感謝申し上
げます。（50音順）

ご寄付をいたいたいたの方々

遠藤英嗣様・小野千賀子様・川本満隆様

後藤雅晴様

賛助会員

上田廣章様・加藤省三様・柴潔子様・柴香里様

BBSバッジ大幅値下げ！

今まで700円であったBBSバッジ。
本年10月からお買い求めやすいワンコ
イン(500円)に値下げしました！ご利
用下さい♪



この機関紙の発行には共同募金の配分を受けています

編集後記



1年が過ぎるのはとても早いですね。皆さんいかがお過ごですか？私が編集員になって、この12月号が3度目です。まだ経験の浅い自分。編集員の先輩方にいろいろとアドバイスをいただきながら、なんとかやっています。正直私はBBSについて知らないことだらけなので、「ともだち」に掲載される各地区的たくさんの活動を知ることができ、とても勉強になっています。今回も中央研修会についてなど内容盛りだくさんです。今後は自分も勉強しつつ、全国の方にBBSの活動をお伝えできるよう頑張っていきたいと思います。（飯田編集員：千葉県連盟）

会長の動き

～10月1日から12月31日まで～

10月6日～7日 BBS会員中央研修会・日B連理事会

10月29日 法務大臣感謝状贈呈式（法務省）

11月3日～4日 中国地方BBS会員研修会（岡山市）

11月18日 東京BBS・OB会総会

11月28日 社明作文コンテスト審査会（法務省）

12月1日～2日 関東地方BBS会員研修会（宇都宮市）

12月7日～8日 更生保護学会設立大会

12月12日 子どもを見守り育てるネットワーク推進会議
(文部科学省)

12月15日 日B連常務理事会

BBSグッズ

BBSグッズ専用口座（郵）00100-0-568002

地区会等代表者名でFAXで申し込んで下さい。

※有償グッズは振込を申込と兼ねられます。

（振込料は申込者負担）

【有償グッズ】…送料：日B負担

- BBSバッジ 500円
- リーフレット(50枚セット) 500円
- クリアファイル(10枚セット) 500円(★)
- トートバッグ 900円(★)
(★)はいずれもBBSロゴ入りです

【無償グッズ】…送料：着払い

- 22年度モデル活動報告書
- 23年度中央研修結果報告書
- BBS運動基本原則解説書
- 「聞く」から「聴く」へ
- ともだち活動をする皆さんへ